

第4章

ロシアの軍改革とロシア極東地域における ロシア軍の変化

坂口 賀朗

ロシアではアナトリー・セルジュコフ (Anatolii Serdiukov) 国防相主導で大規模な軍改革が進められてきた。この改革はロシア軍の「新たな姿 (new look)」ないし新たな態勢を追求するもので、ロシア軍を高い機動性を持ち、近代装備を備えた、戦闘に即応し得る軍隊に変革することを目的としている。ロシア軍指導部によれば、この改革を通じてロシア軍はこれまでの姿とは質的に異なる軍隊へと変貌することになる。ロシア軍参謀総長ニコライ・マカロフ (Nikolai Makarov) 上級大將は、ロシア軍が、ソ連邦崩壊以降の20年間に最新装備の調達が不十分だったために、1970年代と同じ状況にとどまり、最も先進的な軍隊に比べ著しく遅れを取っていることを認めている。マカロフ参謀総長は、これを克服することがこの軍改革における最も重要な課題であると指摘している¹。本章では進行中の軍改革の特徴と現状を分析するとともに、この改革プロセスを通じたロシア極東地域におけるロシア軍の変化を検証する。

4.1 セルジュコフ国防相の軍改革 — その特徴と現状

2008年10月、セルジュコフ国防相は2012年までの軍改革計画を明らかにした。これは将校および部隊の大幅な削減、国防省と参謀本部を含む軍の組織改革、さらに部隊の指揮構造の改革を含む大規模な計画であった²。特にこの改革計画は、師団および連隊の廃止と部隊の旅団への再編に重点的に取り組み、すべての部隊の常時即応旅団化を推進することを目指すものである³。

これまで部隊指揮の構造は軍管区、軍、師団および連隊から成る4層構造であった。現在、これは部隊指揮の効率性を高めるために、軍管区(統合戦略司令部、

Joint Strategic Command)、作戦司令部および旅団の3層構造に再編されている。同時に、すべての部隊の常時即応旅団化の推進は、ロシア軍の機動性および緊急展開能力の向上に直接的影響を及ぼすものと予想される。例えば、空挺軍の改革は機動性と緊急展開能力の向上にとって重要であるが、セルジュコフ国防相は独立した緊急展開軍の創設は必要ないと主張し、むしろ、空挺旅団を強化して全軍管区に展開すれば十分だと考えている⁴。これらの旅団は緊急任務を担当し、不測の事態における作戦を実行することになる。セルジュコフ国防相の立場は、既存の4つの航空強襲師団（各師団は2つの連隊で構成）を航空強襲旅団に再編できれば、8つの旅団を形成することが可能になり、航空強襲旅団は大幅に強化されることになるというものである。各軍管区に配置される空挺旅団は組織的には空挺軍に属するが、作戦遂行時には軍管区司令官の指揮下に入る⁵。この再編は、常時即応態勢にある極めて専門的な軍隊を創設するという意味において、軍改革の大きな方向性と合致するものである。2008年8月のグルジア紛争から得られた教訓の1つは、空挺大隊が卓越した機動能力を示したことから、危機が発生している地域においても容易に輸送可能な規模に部隊を再編することが極めて重要だということであった⁶。

ロシア軍の組織改革は2009年12月までにほぼ完了したと考えられている。2010年6月、セルジュコフ国防相とマカロフ参謀総長はロシア議会上院の国防・安全保障委員会に出席し、軍改革の現状について報告した⁷。彼らの報告によると、2007年初めに2万6,000だった部隊の数は6,000まで削減され、近い将来さらに2,500まで削減される予定である。また、彼らは、軍隊の能力向上と密接に関連している契約兵の数が約15万人に増加し、この数を将来的にさらに20万人から25万人の間まで増やす計画であることを明らかにした。2012年2月、ウラジーミル・プーチン（Vladimir Putin）首相（当時）はロシアの国家安全保障に関する論文を公表し、その中で現在ロシア軍では22万人の将校が、また18万6,000人の兵士および軍曹が契約兵として務めており、今後5年間に契約兵が毎年5万人ずつ増加する見通しであることを明らかにした⁸。旅団編成の進展の状況についてはロシア国内で様々な数字が報告されているが、プーチン首相は同じ論文の中で2012年2月現在、地上軍にはすでに100を超える合同旅団および特別旅団があると報告している⁹。

組織改革のこうした進展を受けて、軍改革の焦点は装備の近代化と更新に移行し

つつある。2010年12月末、ロシアは「2011年から2020年までの国家装備計画」（以下、「新装備計画」）を策定した。新装備計画の主たる目的は、軍が保有する最新装備の比率を2020年までに全体の70%以上に引き上げることによりロシア軍部隊を変化させ、現在よりもはるかに質の高い軍隊を創出することにある。このため、新装備計画の下では、新たな装備の調達のために2020年までに20兆ルーブル以上の予算措置が取られることになっている¹⁰。2011年2月、新装備計画策定に中心的役割を果たしたウラジーミル・ポポフキン（Vladimir Popovkin）第1国防次官（当時）（現在はロシア連邦宇宙局長官）は、同計画における具体的な装備調達目標は以下の通りであると説明した¹¹。

第1は、戦略核戦力の強化である。あらゆる形態の戦略核戦力および戦略ミサイル部隊を近代化するため、同計画では戦略原子力潜水艦（SSBN）8隻の建造を推進して弾道ミサイル「ブラヴァ」を搭載するとともに、Tu-160およびTu-95MS戦略爆撃機を近代化することになっている。

第2は、戦略防衛力の強化である。2018年までにミサイル攻撃に対する警戒システムを近代化することに加えて、ロシアの周囲をカバーする連続したレーダー網も建設される。S-400地対空ミサイルシステムが導入され、S-500地対空ミサイルシステムが開発、調達される。ロシアはミサイル攻撃に対する防空システム、ミサイル防衛システムおよびミサイル攻撃警戒システムを単一の航空宇宙防衛軍（Voiska vozdušno-kosmicheskoi oborony、VKO）司令部の下に統合することを計画し、この計画は2011年12月に実現した¹²。

第3は、精密誘導兵器の開発、導入である。これらにはイスカンデル-M（Iskander-M）短距離離域弾道ミサイルシステムのみならず、海軍艦艇または航空機から発射される精密誘導兵器が含まれる。特に、イスカンデル-Mを装備したミサイル旅団10個が展開されるだろう。

第4の目的は、航空機の近代化である。計画では、2020年までに600機以上の航空機および1,000機以上のヘリコプターを購入することになっている。これらにはSu-34およびSu-35戦闘機、Mi-26輸送ヘリコプター、そしてMi-8、Mi-28NMおよびKa-52攻撃ヘリコプターが含まれている¹³。すでに2011年にヘリコプター100機を購入する手続きに進展が見られた。

第5は、海軍艦艇の近代化である。計画では各種の艦艇約100隻を購入することになっている。これらには潜水艦約20隻(上記のSSBN 8隻を含む)、コルベット艦35隻、フリゲート艦15隻が含まれる。

もちろん、新装備計画には地上軍への最新装備の調達計画も含まれている。アレクサンドル・ポストニコフ(Aleksandr Postnikov)地上軍総司令官(当時)によれば、地上軍では、部隊の指揮・統制のための最新通信システムとコンピュータ・システムの導入だけでなく、地上軍防空部隊への最新地对空ミサイルシステムS-300V4、Buk-M2およびTor-M2の導入も開始された。さらに、地上軍のミサイル部隊および砲兵部隊へのイスカンデル-Mやその他の装備の配備も開始された¹⁴。

2011年6月、ロシア議会下院の審議に出席したセルジュコフ国防相は、「ネットワーク中心の戦争(network-centric warfare)」を遂行できる「新たな姿」のロシア軍の実現を目指した一連の改革が進んでおり、この目的のために新装備計画を策定したと説明した。同国防相はまた、ロシア軍がそうした近代的戦争を成功裏に遂行することを可能にする高性能な兵器を提供することが、ロシアの国防産業にとっての新たな課題であると指摘した¹⁵。新装備計画における2011年の装備調達には戦略弾道ミサイル36基、空中発射巡航ミサイル20基、SSBN2隻、多目的原子力潜水艦3隻、戦闘艦1隻、人工衛星5基、航空機35機、ヘリコプター109機、対空ミサイルシステム21基が含まれている¹⁶。各部隊の指揮・統制システムのコンピュータ化の実現に重要な各部隊への最新情報通信システムの導入に関しては、2011年初めまでに259施設で導入が完了し、このような施設の数はいくつかは2011年末までに500に達することになっていた¹⁷。新装備計画はその初年度から精力的に推し進められていると言っても過言ではない。

4.2 ロシア極東地域におけるロシア軍の変化、あるいは「新たな姿」

ロシア指導部は、ロシアの極東地域に所在する部隊が保有する装備の更新と近代化も優先する政策を打ち出している。ドミトリー・ブルガコフ(Dmitrii Bulgakov)国防次官(装備・兵站担当)は、2011年1月に領有権が争点となっている北方領土(口

シアでは「南クリル諸島」と呼んでいる)を訪問、その後同年2月にはセルジュコフ国防相が同諸島を訪れている。これらの訪問を受けて、国防省指導部内で極東地域の部隊が所有する装備を更新する必要性に対する認識が高まった。こうしたことを背景に、2011年3月に開かれた国防省幹部会議においてドミトリー・メドヴェージェフ(Dmitrii Medvedev)大統領は、ロシア東部および極東地域における国防インフラの近代化を通じてロシアの国防態勢を強化することが極めて重要であることを認めた¹⁸。

欧州正面においては、北大西洋条約機構(NATO)との関係強化を図ろうとするGeorgiaとウクライナの動きにもかかわらず、NATOの東方拡大の問題は当面やや落ち着いた状態にある。2010年2月に承認されたロシアの新軍事ドクトリンは、NATOの東方拡大を軍事的脅威(military threat)ではなく軍事的危険(military danger)と規定し、NATOからの脅威感を若干緩和させている。他方、ロシア指導部の間では極東における中国の急速な軍事力増強に対する懸念が強まっている。これが上記のメドヴェージェフ大統領発言の背景要因と言ってもよいだろう¹⁹。さらに、米国はアジア太平洋地域への戦略的関与を強めており、同地域の同盟国および友好国との関係強化を重視する対外政策を追求しており、この関連で、ロシア指導部は日米同盟の将来の強化に関心を寄せている。この点も極東地域におけるロシアの国防態勢強化の必要性に関するロシア指導部の考え方に影響を及ぼしている背景要因として指摘できる。

また、フランスから購入されるミストラル級(Mistral Class)強襲揚陸艦2隻は太平洋艦隊に配備される予定であり、また、ボレイ級SSBN「ユーリー・ドルゴルキー」もおそらく近いうちに太平洋艦隊に配備されるだろうと報じられている²⁰。さらに注目されるのが、S-400地対空ミサイルシステムをロシア極東地域に配備する計画があるとの報道である²¹。前述したように、新装備計画は戦略的防衛力の強化を非常に重視しており、2011年12月にはミサイル攻撃に対する全ての防空システム、ミサイル防衛システム、ミサイル攻撃警戒システムを統合することにより航空宇宙防衛軍が正式に発足した。ロシア極東地域にS-400を配備するという構想は、こうした全般的な動きの一環とみなされている。ロシア指導部にとって、ロシア欧州部に比べ、極東地域における防空能力あるいはミサイル防衛能力が弱いことが懸念事項であった。特に、ハバロフスクからイルクーツクに至る約2,200キロの空域におけるロシアの防空能力

は著しく脆弱であるという深刻な問題がある。このため、この地域に最新の防空システムおよびミサイル防衛システムを備えた2個ないし3個連隊を配置する必要があると主張する専門家もいる²²。

さらに、極東地域の部隊の強化でも具体的な進展が見られる。進展の1つは、地上軍に諸兵科合同部隊を創設し、これらの1つをロシア極東地域のチタに配置するという構想であり、これは2010年8月に実行に移された²³。進展の第2は、地上軍の中にさらに6個の自動車化歩兵旅団を設置する計画であり、これらの旅団の一部はおそらく東部軍管区に配置されると思われる。係争となっている北方領土に駐留する部隊が保有する旧式な装備の更新に関しては、2011年3月に参謀本部が国防省に対して、「バステオン」沿岸防衛ミサイルシステムおよびTor-M2地対空ミサイルシステムの配備を含む装備更新に関する詳細な報告を提出したと報じられた²⁴。

ロシア軍全体の軍事演習の数が着実に増加していることを背景に、ロシア極東地域における軍事演習の頻度も高まっている。特に、上記のように、極東地域における国防態勢強化の重要性に関するロシア指導部の認識を反映して、この地域の部隊の能力向上を図る取り組みが行われている。2010年には東部軍管区に統合される以前のシベリア、極東両軍管区において大規模な作戦・戦略演習「ヴォストーク(東)2010」が実施された²⁵。これは、ロシア極東の国境地域における仮想敵の攻撃からの安全の確保と国益の擁護を目的とした大規模な演習であった。また、この演習は、インフラ整備が不十分で自然、気候条件が厳しい広大な領域をもつシベリア、極東地域において、部隊指揮の3層構造への移行や、全部隊の常時即応旅団化といったロシア軍の新たな姿を達成しようとする軍改革の効果を検証しようとするものであった。さらに、この演習では軍全体の機動能力が検証された。Su-24M爆撃機およびSu-34戦闘爆撃機計26機がロシア欧州部から空中給油を受けつつ約8,000キロを飛行し、両軍管区内の目標を爆撃するのに成功した。加えて、黒海艦隊所属のミサイル巡洋艦「モスクワ」および北方艦隊所属の原子力ミサイル巡洋艦「ピョートル・ベリーキー」などがロシア極東に回航し、太平洋艦隊の諸艦艇とともに海上での演習を実施した。この演習を通じて、司令部へのハイテク装備の供給と、これらの装備を使える要員の訓練の必要性が短期的に留意すべき課題として浮上した。

マカロフ参謀総長は、「ヴォストーク2010」演習がいかなる国家も仮想敵として想

定しておらず、主としてテロリスト集団や分離主義勢力との低強度の紛争に対処することを狙ったものであったと言明した。しかし、演習の規模や爆撃機による国境地域での爆撃訓練が含まれていたことから、中国を仮想敵として想定しているのではないかという憶測を呼んでいる²⁶。「ヴォストーク 2010」演習のシナリオの最終段階の要素の一つが、極東地域における仮想敵国としての中国に対するロシア軍指導部の懸念を示している可能性がある。すなわち、このシナリオには実際に核弾頭の爆発が含まれており、戦術核弾頭を搭載できるトーチカ-U (Tochka-U) ミサイル 2 基が現実に発射されたことに言及しておきたい²⁷。

2011 年 2 月のあるインタビューの中で、ニコライ・パンコフ (Nikolai Pankov) 国防次官は、ロシア軍当局はロシア極東地域に駐留している部隊に極めて強い関心を抱いていると言明し、2011 年を通じてこの地域では演習が積極的に実施された²⁸。2011 年 4 月には太平洋艦隊の海兵部隊が、沿海地方のハサン地区で戦術演習を行い、これには東部軍管区傘下の空軍部隊、防空部隊および空挺・航空強襲部隊も参加した。同 8 月末から 9 月にかけて、太平洋艦隊は日本海、オホーツク海からカムチャッカ半島の太平洋沿岸に至る地域で大規模な指揮・参謀部演習を実施した。この演習には、太平洋艦隊に所属する海兵部隊、ミサイル巡洋艦「ワリヤグ」、対潜攻撃艦「アドミラル・トリブーツ」、「アドミラル・パンテレーエフ」などが参加し、太平洋艦隊が東部軍管区指揮下の諸部隊と連携を取りながら作戦を遂行する能力、および他の軍種や他の機関の部隊との相互連携の効果が検証された²⁹。そして同 10 月にはアムール州で東部軍管区の指揮・参謀部演習が実施された。この演習には同軍管区傘下の諸兵科合同部隊、空軍部隊、防空部隊などが参加した。この演習は、紛争が生じつつある条件下での作戦・戦術レベルの東部軍管区指揮機関の能力を検証することを目的としたものだった³⁰。このように、装備の更新と近代化、部隊の強化および軍改革の効果の検証を目的とする演習の着実な増加を含む極東地域におけるロシア軍の最近の変化は注目に値する。

4.3 台頭する中国に対するロシアの懸念と東アジアの安全保障

ロシアの極東地域における国防態勢の強化が主として中国の台頭を念頭において実施されていると仮定すると、ロシアと中国の関係が将来どのようなようになるかを次に検証しなければならない。両国関係は最近徐々に停滞してきていると指摘されている。換言すれば、両国間の戦略的な接近を加速させ得る利害の一致ではなく、利害の不一致がますます明らかになりつつある。

まず、ロシア指導部は中国の軍事力増強に対して懸念を抱いていることが指摘できるだろう。すなわち、ロシア指導部は、軍事的に強大となった中国が豊富な資源を抱えながら人口が少ないシベリアやロシア極東地域に進出してくる可能性に恐怖感を感じている³¹。ロシアは最近、中国に対する先端兵器の輸出に次第に慎重な姿勢を強めており、その結果、ロシアの対中武器輸出は停滞しつつある。他方、連邦軍事技術協力局のミハイル・ドミトリエフ (Mikhail Dmitriev) 長官 (当時) によると、中国の国防産業は今やこれまでロシアから購入していた装備の多くを自前で生産できるようになり、その結果として、中国のロシアからの武器輸入は減少しているという³²。ドミトリエフ長官は、両国間の軍事技術協力は続いており、ロシアが対応しなければならない問題の1つは、中国との軍事技術協力が継続した場合に軍事技術における知的財産をどのように守るかという点だと指摘している³³。中国が自国で兵器生産を拡大していることがロシアとの摩擦の原因となっている。ロシアは2010年5月、中国向けにRD-93 ジェット・エンジン 100 基を輸出する契約の調印を一時凍結した。これはスホイ (Sukhoi) およびミグ (MiG) 戦闘機を製造している複数のロシア企業幹部がこの契約に反対したからである。彼らは、中国に対するこのエンジンの供与は中国製戦闘機の開発を促進し、市場におけるロシア製戦闘機と中国製戦闘機間の競争が激しくなると主張したのである。中国が開発したFC-1 戦闘機は性能面ではMiG-29 に劣るものの、コストはMiG-29 の3分の1以下であり、ロシア企業は不利な立場に追い込まれると彼らは考えたのである³⁴。中国に対するこの不信感が、ロシアが中国に対する武器輸出に慎重な姿勢を見せている背景にあるもうひとつの要因である。

次に考慮すべき要因は、中露両国にとって重要な多国間協力の枠組みである上海協力機構（SCO）の運営に関するロシアと中国の考えの相違である。軍事協力の枠組みとしての SCO の重要性に関して、中国は必ずしもロシアと同じ理解をしていない³⁵。中国は資源が豊富な中央アジア各国との経済協力強化を軍事協力強化より重視している。対照的に、ロシアは、「南からの脅威」に対抗する目的で、主に中央アジア各国との軍事協力を重視している。ここで言う「南からの脅威」とは、イスラム過激派によるテロ活動の拡大の結果として、中央アジアで軍事紛争が生起する可能性、および麻薬密輸などを含む越境犯罪が中央アジアを通じて広がる可能性のことである。この結果、中央アジアにおける影響力の拡大をめぐる、ロシアと中国の間には大きな立場の違いがある。

さらに、中国の海洋進出の拡大もロシアの中国に対する懸念を深めている。ロシア人の間では、中国が引き続き海洋活動を阻止されることなく続けた場合、中国の海洋活動の範囲がベーリング海から北極海まで拡大してくる可能性に対する懸念が高まっている。要するに、多くのロシア人は、北極海が航行できるようになれば、中国にとっては欧州向けの効率的な海上輸送ルートになり、中国の軍艦も北極海に進出してくる可能性があると感じている³⁶。前述のように、太平洋艦隊に最新型艦艇を配備するというロシアの計画の背景には、中国の拡大する海洋活動に対処しようというロシア指導部の意図があると受け止められている。

極東地域においては、ロシアが台頭する中国に対する安全保障を念頭にその軍事的スタンスを考慮する中、中国との関係という観点から日本および日米同盟がロシアにとって重要性を増す可能性がある。同様に、日本にとっても、ロシアとの協力関係強化は、中国の軍事力増強に対処するための長期戦略の観点から重要なオプションになると考えられる。

¹ 'Modernizatsiia Armii—Pervostepennaia Zadacha,' *Voennyi Parad*, No. 2, March–April 2011, p. 5.

² Solovev, Vadim (2008) 'Voennaia reforma 2009–2012 godov,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, No. 44, 12–18 December 2008.

³ Lannon, Gregory P. (2011) 'Russia's New Look Army Reforms and Russian Foreign Policy,'

Journal of Slavic Military Studies, Vol. 24, No. 1, pp. 26–54.

- ⁴ Pukhov, Ruslan (2008) 'Serdyukov's Plan for Russian Military Reform,' *Moscow Defense Brief*, No. 4, p. 23.
- ⁵ ロシア国防省のウェブサイトに基づく: <http://www.mil.ru/info/53270/53287/index.shtml> (retrieved 14 September 2009).
- ⁶ ロシア国防省のウェブサイトに基づく: <http://www.mil.ru/847/851/1291/12671/index.shtml?id=62417> (retrieved 15 September 2009).
- ⁷ 'Senatory podali signal,' *Rossiiskaia gazeta*, 10 June 2010; and Litovkin, Viktor (2010) 'Skukozhennye garnizony,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, No. 22, 18–24 June 2010.
- ⁸ Putin, Vladimir (2012) 'Byt silnymi: garantii natsionalnoi bezopasnosti dlia Rossii,' *Rossiiskaia gazeta*, 20 February 2012.
- ⁹ Ibid.
- ¹⁰ 'Modernizatsiia Armii—Pervostepennaia Zadacha,' op. cit., p. 4; and *Krasnaia zvezda*, 25 February 2011, on the Internet: http://www.redstar.ru/2011/02/25_02/1_01.html (retrieved 18 May 2011).
- ¹¹ *Krasnaia zvezda*, 25 January 2011, on the Internet: http://www.redstar.ru/2011/02/25_02/1_01.html (retrieved 18 May 2011).
- ¹² Khranchikhin, Aleksandr (2011) 'Vozdushno-kosmicheskaiia oborona kak vozmozhnost,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, No. 8, 4–10 March 2011; and McDermott, Roger (2012) 'Aerospace Defense Forces: Russia's New Military Reform Agenda,' *Jamestown Foundation Eurasia Daily Monitor*, 27 March 2012, on the Internet: http://www.jamestown.org/single/?no_cache=1&tx_ttnews%5Btt_news%5D=39186&tx_ttnews%5BbackPid%5D=7&cHash=69300ad934df347ffba5f9f1876201b9 (retrieved 27 April 2012).
- ¹³ Nowak, David (2011) 'Russian military to purchase 600 planes, 100 ships,' AP, 24 February 2011, in *Johnson's Russia List*, No. 34/2011, 24 February 2011; and Rastopshin, Mikhail (2011) 'Ozhidaemyi i zakonomernyi proval GPV-2020,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, 1–7 July 2011.
- ¹⁴ *Krasnaia zvezda*, 2 March 2011, on the Internet: http://www.redstar.ru/2011/03/02_03/1_05.html (retrieved 18 May 2011).
- ¹⁵ *Krasnaia zvezda*, 16 June 2011, on the Internet: http://www.redstar.ru/2011/06/16_06/1_02.html (retrieved 20 June 2011).
- ¹⁶ 'Modernizatsiia Armii—Pervostepennaia Zadacha,' op. cit., p. 4.
- ¹⁷ Ibid., p. 5.
- ¹⁸ Ibid., p. 6.
- ¹⁹ Saradzhyan, Simon (2010) 'The Role of China in Russia's Military Thinking,' *Russian Analytical Digest*, No. 78, 4 May 2010, pp. 5–7, on the Internet: <http://www.res.ethz.ch/kb/search/details.cfm?Ing=en&id=116019> (retrieved 10 May 2010); Grove, Thomas (2011) 'Analysis: Russia turns military gaze east to counter China,' Moscow (Reuters), 1 March 2011, in *Johnson's Russia List*, No. 38/2011, 2 March 2011; and Khranchikhin, Aleksandr (2011–2012) 'Fenomen kitaiskoi voennoi moshchi poka eshche nedootsenen,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, No. 50, 29 December 2011–19 January 2012.
- ²⁰ *Rossiiskaia gazeta*, 5 September 2011, on the Internet: <http://www.rg.ru/printable/2011/09/05/dolgorukiyanons.html> (retrieved 11 October 2011).
- ²¹ Grove, 'Analysis: Russia turns military gaze east to counter China,' op. cit.

- ²² Khramchikhin, 'Vozdushno-kosmicheskaja oborona kak vozmozhnost,' op. cit.
- ²³ ロシア国防省のウェブサイトに基づく: <http://www.mil.ru/info/1069/details/index.shtml?id=75415> (retrieved 4 October 2010).
- ²⁴ Auslin, Michael (2011) 'Russia Fears China, not Japan,' *Wall Street Journal*, 3 March 2011, in *Johnson's Russia List*, No. 39/2011, 3 March 2011.
- ²⁵ この演習の概要は以下のサイトで見つけることができる。on the Internet: http://www.redstar.ru/2010/06/29_06/1_01.html, http://www.redstar.ru/2010/07/15_07/1_01.html, http://www.redstar.ru/2010/08/11_08/1_05.html, and <http://www.rg.ru/printable/2010/07/08/regdvostok/makarov-anons.html> (retrieved 23 August 2010).
- ²⁶ Saradzhyan, Simon (2010) 'Russia's Red Herring,' *ISN Security Watch*, 25 May 2010, on the Internet: <http://www.res.ethz.ch/news/sw/details.cfm?v35=123329&lng=en&id=116546> (retrieved 28 May 2010).
- ²⁷ Thornton, Rod (2011) *Military Modernization and the Russian Ground Forces*, SSI Monograph, The Strategic Studies Institute, the US Army War College, June 2011, p. 29, on the Internet: <http://www.strategicstudiesinstitute.army.mil/pdffiles/PUB1071.pdf> (retrieved 13 April 2012).
- ²⁸ Grove, 'Analysis: Russia turns military gaze east to counter China,' op. cit.
- ²⁹ *Krasnaia zvezda*, 21 September 2011, on the Internet: http://www.redstar.ru/2011/09/21_09/2_02.html (retrieved 26 September 2011).
- ³⁰ ロシア国防省のウェブサイトに基づく: http://www.function.mil.ru/news_page/country/more.htm?id=10720784 (retrieved 4 November 2011).
- ³¹ Grove, 'Analysis: Russia turns military gaze east to counter China,' op. cit.
- ³² Bridge, Robert (2011) 'Top Gun: Russia smashes weapon export record,' *www.russiatoday.com*, 24 February 2011, in *Johnson's Russia List*, No. 34/2011, 24 February 2011.
- ³³ Ibid.
- ³⁴ Miasnikov, Viktor (2010) 'Pekin zanimaet chuzhoe mesto na mirovom rynke VVT prakticheski bez boia,' *Nezavisimoe voennoe obozrenie*, No. 26, 16–21 July 2010; and Wagstaff-Smith, Keri (2010) 'Russia stalls on contract to supply China with fighter engines,' *Jane's Defence Weekly*, 9 July 2010.
- ³⁵ Mukhin, Vladimir (2010) 'Severoatlanticheskii postsovetkii alians: V voennoi istorii SNG nastupaet sudbonosnyi etap,' *Nezavisimaia gazeta*, 1 September 2010, on the Internet: http://www.ng.ru/cis/2010-09-01/1_alliance.html (retrieved 4 October 2010).
- ³⁶ Auslin, 'Russia Fears China, Not Japan,' op. cit.; and Howard, Roger (2010) 'Russia's New Front Line,' *Survival*, Vol. 52, No. 2, April–May 2010, p. 145.

